

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

「思い出すシリーズ～2012年湖南省編②～」

JSC 貿易部ニュース 中国編



いつもお世話になっております。

今月も貿易部ニュースに目を通して頂いてありがとうございます。

※諸般の事情によりまして、2012年の渡航記を再構成してお送りしております。

前段の河北省編～山西省～湖南省編①に引き続き、今回は湖南省編②、後編です。

御笑覧くださいませ。

～・～

取引先のウーさん、その協力工場のスー社長、弊社のワンさん、そして私を入れて4人の出張記、湖南省に入り、「G9402」の工場を見学したところまでが先月のお話です。

中国沿岸部に存在する石の丁場が次々と閉鎖されるに伴い、内陸部の丁場がリバイバル含めて注目される流れがあるようです。

「G 9402」を視察後、いったん岳陽の街に戻りました。次の目的地までは汽車での移動になるのですが、すでに当日の切符は売り切れのため、翌日早朝まで待たなければならないとのこと。

我々一行は、ひとまず駅前の百貨店に併設されている宿泊所みたいなところにチェックインして荷物を置いてから食事に出掛けることになりました。

待ちに待った湖南料理です。

2010年前後でしょうか、廈門で「四川料理」や「湖南料理」といった、いわゆる“激辛料理ブーム”がありました。辛いもの好きの私は好んで食べていたので、機会があれば本場でも食べてみたいと思っていたのです。

麻婆豆腐などが有名な四川料理は、その味を「麻辣（マーラー）」【しひれる辛さ、山椒辛さ】と表現されますが、それに対して湖南料理は色んな種類の唐辛子を使います。なので「ただただ、ひたすら辛い」のが特徴です。代表的な料理が下の写真の「剁椒魚頭（トウガジャオ-トウ）」です。



魚の蒸し物に赤や緑が色鮮やかに並べられていますが、ぜんぶ唐辛子で、見た目で想像する3倍くらいの辛さです。

現地の人は、このスープに日本の素麺のような麺を浸して、辛さエキスを存分に味わっていたのが印象に残っています。

湖南省に滞在中は、毎回この「淡水魚の唐辛子蒸し」がテーブルに並べられ、また他の野菜炒めのようなメニューにもほぼ唐辛子がトッピングされていましたので、最初のうちは「辛いのうまい！」と思っていたのが、次第に「辛いのこわい・・・」という感覚が蓄積されハートが削られていきます。

そんな時に心のオアシスになったのが同じく現地の名物料理「绿茶饼」です。芋餡に緑茶を練りこみ、ゴマをまぶして揚げた、ほんのり甘い料理？お菓子？になります（下の写真）。



辛いのと甘いのを交互に口にしていると、口の中がリセットされて、永遠に食べられそうな気分になるから不思議です。

四川料理に比べ、まだ日本ではあまりメジャーではない湖南料理ですが、もし機会がありましたらお試しいただければと思います。

翌朝、5時39分発の電車に乗るため、超早起きして出発です。

下の地図で、岳陽 (Fの地点) から懷化 (G) まで距離にして約600km、汽車で9時間の移動です（ちなみに同じ湖南省内の移動なのです・・・）。



私自身、「懷化市」という場所の名前すら聞いたことがなかったので、どんな辺りなところに連れていかれるのかと内心ドキドキしていたのですが、駅を降りてすぐ街の発展度合いに驚かされます。



もちろん上海などの大都市とは比べられないものの、駅前はビルも多く、建築ラッシュを迎えているのか工事用クレーンが乱立しています。泊まるホテルも十分清潔感があり問題ありませんでした。ただ、サービスマナーやホスピタリティといったものは、都会とはやはり格差があり、10数年前の社会主義チックな中国を思い起こさせるものでした。

「G 9426」「G 213」「G 112」など日本でもお馴染みの石種は、この湖南省懷化市の山中で採掘されています。目的の石の丁場ですが、街中から約50km離れた山の中にあります。ほかの石でもそうですが、いつも丁場を訪問する度に、「よくこんなところから石を見つけてきたなあ」と感心するのですが、湖南省の石も山中奥深くから運び出されています。

「G 9426」ですが、別名「中国河田石」とも呼ばれ、以前より関東圏を中心に外柵材としてご利用いただいております。採掘現場はかなり山の方にあり、大きいブロックも取っていました。2020年現在でも安定的に採掘を進めており、弊社の提携工場でも在庫を確保しています。



「G 213」は、以前より関西圏を中心に青手の高級材として使用いただいておりますが、採掘状況はやや安定性に欠け、採掘と停産・整理を繰り返しています。ひとつには、キズが多いためなかなか成材率が上がらないこと、ふたつ目にはすでにかなり深くまで掘っているため、続けて採掘していくためには作業面積を広げる必要があるのですが、これが大きな資金投下が必要になることが理由に挙げられます（あと現地でチラッと聞きましたが、地権者とのちょっとした諍いもあるようです）。

2020年現在でも、全面的に採掘しているわけではないとのことですが、弊社の提携先では長尺も確保しておりますので、お気軽に弊社営業員までお問い合わせくださいませ。



弊社の協力工場には、G 213の長尺も仕入れても
らっています（2020年8月頃撮影）



約10日間にわたる出張も、湖南を最後に解散となります。私はトップ絵に出てくる地元の小さな空港（いちおう国際空港らしいです）から、上海経由で日本に戻るのですが、今回同行して頂いたスー社長は、バスを乗り継いで南安まで帰るそうです。1000km以上の大移動！

さすがのタフさに敬服した次第です。スー社長とは今でもお付き合いさせて頂いており、会うたびに当時の思い出話などをさせてもらっています。

さて、読者の皆さんには「思い出すシリーズ」全4回にお付き合い頂きありがとうございました。

来月からは通常通りの配信に戻りますので、よろしくお願いします。

2020/11/1